(註一) Cornelio Balmacoda, dircetor of Commerce, Philippine Journal of Commerce, 1941. April. P. 5

(註二) National Economuic Council

(一) 米

比島における粳米產額並びに作付面積は次の如くである。(註三)

年次	產額(カバン)(註四)	作付面積(ヘクタール)
一九二九年	四九、七八六、四〇〇	一、七七五、四六〇
一九三〇年	四一、五八六、九〇〇	一、八一二、八〇〇
一九三一年	四九、六四〇、三〇〇	一、七九〇、六一〇
一九三二年	四七、二九九、二〇〇	一、七八一、六三〇
一九三三年	四七、八四三、〇〇〇	一、八五三、七二〇
一九三四年	五三、〇〇一、二〇〇	二、〇〇四、〇三〇
一九三五年	四五、八二五、一〇〇	一、九六四、〇七〇
一九三六年	四二、二一九、六〇〇	二、〇四八、七〇〇
一九三七年	五五、〇一五、七三〇	二、〇六〇、九六〇
一九三八年	五二、三四五、二一〇	一、九一二、〇五〇

(二) 比島の米穀需給

比島における米作は既述の如く、主として自家消費用のために耕作せられるものなるにより年々相當量の輸入を見てゐる。米國領有直後より增產政策を採用してゐるが未だ輸入を防壓するに至らない。一九三九年國勢調査(註五)によれば、比島人口の六七・五七%千八十一萬千五百二十人は米を主食とするものであるから重大問題たるを失はない。最近五箇年の粳米輸入量次の如し。

年次	輸入額(カバン)	年次	輸入額(カバン)
一九三六年	四、〇七二、〇〇〇	一九三九年	三、六二五、〇〇〇
一九三七年	…	一九四〇年	八六八、〇〇〇
一九三八年	九一四、〇〇〇		

(註三) Bulletin of Philippine Statistics 1939.

(註四) カバン(Cavan)は乾量、七十五立

(註五) Manila Bulletiu 1941, August 1.

(三) 一九四一年米穀需給豫想

最近の研究(註六)によれば一九四一年度は比島の米穀需給は粳米五、九一九、九〇四カバン(米二、八〇九、九五二カバン)の不足でその計算の基礎は一九四〇—四一耕作年度產粳米四八、八〇〇、〇〇〇カバン、前年破損越米二、五〇〇、〇〇〇カバン、一九四一年產粳米三、〇〇〇、〇〇〇カバン、合計、五四、三〇〇、〇〇〇カバン、また種粳、動物飼料、

保管等による減損、合計三、六〇〇、〇〇〇カバン、一般食糧用籾米五〇、〇〇〇、〇〇〇カバン、見込消費量五六、二一九、九〇四カバン、差引不足額五、六一九、九〇四カバンとなる。

比島における米作の振はざるは零細耕作による經濟的不利、從つて自家消費産米を供給し得る限度以外の勞力と耕地の有利なる輸出作物への轉用、農耕技術の進歩せざること、種苗改良の行はれざること等にその原因を求むべきである。政府は米穀會社(註七)を設立し穀物市價の安定維持に努め、最近において灌漑施設の擴充國内移民(註八)による增産、田植祭の制定等によつて食糧の增産に努めてゐる。

(註六) Felipe Buencanuino

(註八) 例へばロナダル谿谷開發計畫

(註七) National Rice and Corn Corporation

(四) 輸出作物

輸出作物の主なるものは甘藷、マニラ麻、古々椰子、煙草であるが、これ等の輸出、耕作物中、砂糖については全輸出の九九%、古々椰子油については九六%、葉卷煙草については八〇%がアメリカに輸出せられる(註八)。比島農産の特異性は輸出作物の最大比重を占めるところにありその中において更に對アメリカ輸出量の多きを占めるところにある。これ、獨立法(註九)に特に經濟條項(註十)を置き、更に、獨立法修正法(註十一)により前記經濟條項を修正し、近時において國際情勢の緊迫化により米比連帶の政治思潮の昂揚と共に、右二法律に定むる輸出稅の停止の要求となつてゐる所以である。

(註八) Philippine Journal of Commerce, 1941, April, p. 5

(註九) タイディングス・マクダフイ法、一九三四年五月一日、比島議會承認

(註十) 第六條

(註十一) タイディングス・マクダフイ法修正法、一九三九年八月七日裁可

各輸出作物の生産額、耕作面積は次の如くである。

甘藷作付面積 (註十二)

年次	ヘクタール	年次	ヘクタール
一九二九年	二五七、七一〇	一九三四年	三〇五、八九〇
一九三〇年	二五九、〇三〇	一九三五年	二一一、〇九〇
一九三一年	二五六、一八〇	一九三六年	二五〇、七四〇
一九三二年	二五三、一一〇	一九三七年	二五七、〇六〇
一九三三年	二六八、四六〇	一九三八年	二二七、九二〇

分密糖生産額

年次	ピクル	年次	ピクル
一九二九年	一一、〇三五、四一〇	一九三〇年	一二、四三四、一三〇

年次	ピクル	年次	ピクル
一九三一年	一二、四九七、〇〇〇	一九三五年	一〇、〇四四、五五〇
一九三二年	一五、七八〇、三六〇	一九三六年	一四、〇三九、八五〇
一九三三年	一八、四三〇、五四〇	一九三七年	一六、〇二二、八四〇
一九三四年	二二、九一九、三七〇	一九三八年	一五、一二六、五六〇

粗糖生産額（註十三）

年次	ピクル	年次	ピクル
一九三四年	三三四、七五〇	一九三七年	一四、九九〇
一九二五年	三六六、一八〇	一九三八年	三八七、九三〇
一九三六年	四〇六、〇五〇		

糖密生産額

年次	立	年次	立
一九三四年	二五八、〇二九、一〇〇	一九三七年	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九三五年	二〇〇、五九五、三六〇	一九三八年	一八九、〇九六、四七〇
一九三六年	一七六、九二三、三一〇		

以上のほか、糖果パノチア、糖汁バシ（Panocha, Basi）の生産額は一九三八年に各四八六、一七〇ピクル、六、一一九、五三〇立あり。

古々椰子植付面積

年次	ヘクタール	年次	ヘクタール
一九三四年	六〇八、二〇〇	一九三七年	六三七、九五〇
一九三五年	六一七、八九〇	一九三八年	六四三、一一〇
一九三六年	六三一、九八〇		

コプラ生産額

年次	産額（ピクル）	年次	産額（ピクル）
一九三四年	七、五一四、六七〇	一九三七年	八、二五一、一五〇
一九三五年	九、七八八、八六〇	一九三八年	一一、〇三二、〇三〇
一九三六年	一〇、二九〇、八二〇		

古々椰子油生産額

年次	産額（立）	年次	産額（立）
一九三四年	二、三七七、八一〇	一九三七年	四、七〇六、〇〇〇
一九三五年	二、三九〇、五二〇	一九三八年	三、一七六、〇〇〇
一九三六年	三、二六〇、四一〇		

マニラ麻生産額

年次	植付面積（ヘクタール）	産額（ピクル）
一九二九年	四八四、八五〇	三、三七三、八一〇
一九三〇年	四九六、〇八〇	三、〇九〇、七四〇
一九三一年	四八四、八八〇	二、五六四、三四〇
一九三二年	四六七、〇四〇	二、〇六一、五七〇
一九三三年	四四七、一七〇	二、一二五、七九〇
一九三四年	四五八、六一〇	二、八四九、九二〇
一九三五年	四八八、一二〇	三、一七一、一七〇
一九三六年	四七八、八八〇	三、〇八二、五三〇
一九三七年	五〇二、七一〇	三、一七一、九七〇
一九三八年	五〇八、三四〇	二、六〇七、三八〇

煙草作付面積及生産額

年次	作付面積（ヘクタール）	生産額（キンタル）
一九二九年	八二、六二〇	一、〇三〇、八四〇
一九三〇年	七九、九九〇	一、〇〇二、四七〇
一九三一年	七四、三九〇	九四六、〇一〇
一九三二年	七八、二三〇	九八一、二六〇
一九三三年	七四、六一〇	九〇七、六一〇
一九三四年	五五、四三〇	七一〇、三八〇
一九三五年	六一、五二〇	六二二、六六〇
一九三六年	六五、四八〇	七〇〇、六七〇
一九三七年	七四、〇四〇	七二五、二〇〇
一九三八年	七四、八〇〇	七八一、三八〇

（註十二） Bulletin of Philippine Statistics 1939.

（註十三） ムスコバド糖（Muscovado）を指す。舊式製法により糖汁を絞り、これを蒸溜す。

第二節　比島輸出農作物と東亞共榮圏

比島輸出農作物が現在においてその市場を主としてアメリカに求め、有利なる特惠關稅によつて盛大を致してゐるこ

とは既述の如くであるが、砂糖、古々椰子、マニラ麻、煙草中特に重要視すべきはその投資額の大なると、從事員數の多數を占めてゐる砂糖、古々椰子、マニラ麻である。而して、東亞共榮圈における意義を考察するに砂糖については、東亞諸國中主要產糖國の生產額は一九三九年において次の如くなつてゐる。（註十四——單位千噸）

國名	產額	輸入	輸出
日本	一、六六三	二	三〇六
支那	三九〇	二六九	—
インド	三、七九一	二五一	三四
ジャワ	一、五二五	—	一、一六六
マレー	—	一四六	一七
フィリッピン	八九七	—	八七〇

前掲數字により明なる如く、東亞諸國における砂糖生產は明に供給過剩であり、しかも、これがジャワにおける蘭印政府の減產方針採用後のことであることを注意すべきである（註十五）。加ふるに比糖產糖は栽培製造技術の進歩せざることよりして生產原價は最高のもの〻一つに屬し（註十六）一九三〇年頃においてフイリツピンの砂糖が分密糖工場における原價一ポンドに付六センタボなりしに對し、キユーバにおいては三・五センタボ以下、ジャワ糖四センタボであつた。一ヘクタール當り收量はほぼジャワにおけるもの〻二分の一であつたのであるから、中央製糖工場（註十七）による砂糖工業の近代化も、比島甘藷農業に根本的地歩を與へるに至つてゐない譯であるが、この問題については人口一人當の砂糖消費量に對する考察を加ふべきであらう。一九二九年における統計によればアジア諸國におけげる人口一人當砂糖消費額は極めて低く、日本九・四キロ、支那一・九キロ、英領インド一一・九キロ、ジャワ四・七キロ、ペルシヤ七・九キロ、其の他三・九キロであるに對しヨーロツパ及びアメリカ諸國においてはドイツ二二・六キロ、スイス三七・九キロ、フランス二四・二キロ、イギリス四一・六キロ、デンマーク五四キロ、スエーデン五六・七キロ、アメリカ五四キロの多きに達してゐる。斯くの如く考へて來る時、東亞諸國における比島糖業の位置は特に日滿支三國を中心として考慮する場合、極めて意義あるものとなつて來るであらう。既に獨立法實施早々の時においてアルナン（Rafael R. Alunan）は比島糖業の現下の課題を（一）生產原價の低下、（二）人口一人當り消費量の增加、（三）アメリカ市場の確保にありとし、中特に比島國內における消費の增加に重點を置いて論じてゐるのである。其の說によれば、比島國內における砂糖消費量は年額僅かに七萬六千噸に過ぎず、人口一人當十一ポンド、これをアメリカ、キユーバ、ハワイにおける消費率に昂むることを得ば、比島生產糖の大部分を殆んど國內において消化し得べしと論じたのである。

マニラ麻、古々椰子、煙草についても、何れも熱帶乃至亞熱帶作物の關係上、比島產の東亞共榮圈內における地位は現在、或ひは將來において糖業と頗る相似た地位に立ち、或ひは立つに至るのおそれなしとしないのであるが、政府はこれに鑑み現在新農作物の奬勵による轉換、特にゴムの栽培（註十八）等を行ひ、また獨立と現下の國際情勢に見て次の諸方針の下に進んでゐる。（註十九）

即ち（一）獨立法中の經濟條項を改め、現情勢に適當したものとすること。（二）輸出貿易を新方向に調整し、アメリ

カ農産物と競合せざるデリス根、キニーネ、ゴム、ルンバン油(註二十)の生産輸出に努め併せて世界市場に進出せしむ。(三)フイリソピン物産に各國市場を開拓し、このため適當なる代理業者を設く。(四)工業化により國内消費向け生産を増加し、勞働人口の吸收に努む。(五)農産市場配給組織の整備により生産者の收入を増加する。(六)フイリッピン人小賣商の増加等である。

砂糖については獨立法修正條項による累進課税については變更なく、(註二十一)椰子油煙草については累進課税は免ぜられたが割當量を一九四一年以降毎年五分當低減せられることゝなつた(註二十二)。アメリカが比島に獨立を許容するに至つたのは比島農産によるアメリカ農業に對する壓迫を除くためでありアメリカとの關係において考慮すれば比島農産物は平時において寧ろアメリカの負擔たるべきものである。況んや最近米比間の輸送船舶の不足で砂糖の如き比島倉庫には卅萬噸の滯貨あり(註二十三)何れも運賃昂騰に惱む狀況において、比島の經濟調整は對米依存の不自然なる現狀を出來得る限り脱却すべきを歴然と示してゐるものである。然して、これを東亞共榮圏、就中日滿支經濟ブロックより考ふるに比島の農産は概して競合せざる補給の地位に立つものであり、地緣的關係よりして特に歡迎せらるべきものたるは言をまたぬのである。

(註十四) 砂糖年鑑昭和十五年版

(註十五) ジャワにおいては一九二九年世界恐慌に際し、甘蔗作付面積は二十萬ヘクタール砂糖生産額は二百九十萬噸以上であつた

(註十六) H. H. Miller, Economic Principles applied to the philippines. P. 170

(註十七) Centrals. 精製工場は各耕作者と長期契約を結び、甘蔗を受取りこれを處理して一定の比率により製品を分つ

(註十八) 例へばコロナダル(移住計畫

(註十九) Cornelio Barmaceda, Meeting the Challenge of 1946. philippine Journal of Commerce, 1941, April. ベルヤセダは比島農商務省農産局長

(註二十) Lumbang Oil

(註二十一) タイディングス・マクダフイ法修正法D項

(註二十二) タイディングス・マクダフイ法修正法 B項3a、b、c

(註二十三) Sugar News, 1941 August P. 361

5,00

C

(代 醫 藥)